

第2回秦野市総合計画審議会 会議記録

1 開催日時	令和7年7月3日(木) 午前9時30分から午後0時まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎4階議会第1会議室	
3 出席者	委員	小林会長、池田委員、石井委員、薄井委員、海平委員、小野委員、小泉委員、斎藤(初)委員、斎藤(政)委員、柴田委員、高橋委員、田村委員、中谷委員、松崎委員、宮川委員、山崎委員、坂野副会長(欠席)、北村委員(欠席)、竹内委員(欠席)、宮永委員(欠席)
	市	石原副市長、高橋副市長、教育長、政策部長、総務部長、税務担当部長、くらし安心部長、文化スポーツ部長、福祉部長、こども健康部長、環境産業部長、はだの魅力づくり担当部長、都市部長、建設部長、上下水道局長、教育部長、消防長、総合政策課長、総合政策課担当課長、行政経営課長、財政課長、総合政策課課長代理(総合政策担当)、行政経営課課長代理(行政経営担当)、行政経営課課長代理(公共施設マネジメント担当)、財政課課長代理(財政担当)、総合政策課主査
4 議題	<p>1 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画素案について</p> <p>(1) 序論及び第1部 計画基礎指標(前提となる基礎条件)</p> <p>(2) リーディングプロジェクト及び施策大綱別(分野別)計画の体系</p> <p>(3) 第1編 誰もが健康で共に支えあうまちづくり【健康・福祉・子育て】</p> <p>(4) 第2編 生涯にわたり豊かな心と健やかな体を育むまちづくり【教育文化・スポーツ】</p> <p>(5) 第3編 名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくり【環境・農林業・安全・安心・上下水道】</p> <p>(6) 第4編 住みたくなる訪れたくなるにぎわい・活力あるまちづくり【にぎわい・活力】</p> <p>(7) 第5編 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくり【市民と行政のパートナーシップ】</p> <p>(8) 地域まちづくり計画</p> <p>2 その他</p>	
5 配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画素案</p> <p>資料2 秦野市総合計画はだの2030プラン後期基本計画素案施策体系・目指すまちの姿(前期基本計画との比較)</p>	

9 : 30～

◆開会

- ・資料の確認
- ・出席委員数（16名／20名）及び会議成立の報告

◆委員の紹介

- ・藤村委員に代わり高橋委員が就任、紹介
- ・前回会議欠席委員の紹介

（主な質疑）

田 村 委 員

問：本日の議題に入る前に、前回会議で配付された参考資料を確認した中で、前期基本計画の中間評価について、目標値に対して実績を出して機械的に判定をしているが、例えば、基本施策314「ごみの減量と資源化の推進」では、「市民一人1日当たりごみ排出量」は、中間値の目標値を達成しているにも関わらず、判定としては「概ね順調に進んでいる」となっている。数値を下げる時の指標に対する判定の仕方がおかしいのではないかと思う。基本施策342「暮らしの安心を支える消防・救急体制の充実」の「消防団員数」は、当初値より中間値が下回っているにも関わらず、「概ね順調に進んでいる」という判定で、基本施策344「地域の交通安全対策の充実」の「秦野警察署管内人身交通事故件数」は、大幅に目標値を達成しているが、「やや遅れている」という判定になっている。機械的な評価だけを信じるとおかしくなってしまうので、注意してもらいたい。

小 林 会 長

指標の関係は、坂野副会長が会長、私が副会長を務めている行財政調査会という組織で議論してきている。指標だけで判断するのは難しい部分もあるが、事務局としてはどうか。

総 合 政 策 課

答：減少させることを目標値としている項目について、ご指摘いただいた意見を踏まえて、今後、後期基本計画の指標設定を検討していきたい。

小 林 会 長

KPI、キーパフォーマンスインジケータという、やたらと数値目標を立てるといことがあるが、行政の政策を単純な数値で評価するのは難しく、外部委員が入った行財政調査会でもかなり熱心に議論していることを付け加えさせていただく。

◆議事(1) 序論及び第1部 計画基礎指標(前提となる基礎条件)

議事(2) リーディングプロジェクト及び施策大綱別(分野別)計画の体系

- ・事務局から議事(1)及び(2)に係る説明(資料1・資料2)

	(主な質疑)
小林会長	先ほど田村委員から意見を頂戴したが、月曜日に行財政調査会があり、10名ほどで学識者も集まり議論しているが、坂野副会長からはリーディングプロジェクトの進行管理をきちんと進めていきたいと言われていたので、この場で申し上げておきたい。
宮川委員	問：3ページに「2050年カーボンニュートラル」とあるが、一般市民はわからない。他にも横文字の記載がたくさんあるので、そういうものについてはコメントを入れてもらえるとありがたい。
総合政策課	答：ご指摘いただいた表記については、カタカナ用語も日本語で説明できるように工夫はしているが、どうしても専門用語を使わないといけないものについては、注釈を入れて、わかりやすくしていきたい。
海平委員	問：リーディングプロジェクトは1から5まで記載してあるが、これはその中でも1が優先されるのか、全部同じ扱いなのか教えてほしい。
総合政策課	答：1から5まで同じ位置付けで考えている。
斎藤(初)委員	問：5ページの(5)地域のつながりと多様な主体による支えあいの再構築のところで、「定住人口の増加につなげるとともに、関係人口やオンライン関係人口を創出・拡大するなど、多様な担い手によるまちづくりを推進していく必要があります」とされているが、その後の8ページと9ページに、人口の実績値と予測値と、産業別従業者数と構成比の記載はあるが、関係人口とオンライン関係人口のデータが記載されていない。データが揃っていないと実際に拡大したのかどうか分からないのではないと思うが、その算出は難しいのか。
総合政策課	答：関係人口の把握をしたいが、定義自体が難しい。例えば、ふるさと寄附金で秦野市に寄附していただいた方や、市のホームページを見た方も、つながりが出たので関係人口にするのかなど。国も関係人口の数値は出していないので、難しいということをご承知いただければと思う。
小林会長	関係人口の拡大というのは、移住者だけではなくて、秦野市に関係を持った人を増やしていこうということ。正確に把握するのは難しいが、イベントの参加者などから推察していくことは可能かと思う。
政策部長	答：今事務局で捉え方は難しいと言ったが、一定のルールで決めれば良いと思う。それが全国的に統一されたものでなくても、秦野市はこれを

関係人口として位置付けるという考え方を持てば良いだけの話で、それが他の市と違うかもしれないけれど、そういった形で検討することはできると思う。一番小さく言えば、先ほど事務局が言った、ふるさと寄附金をしてくれた方の人数でも良い。そこは工夫する余地があるので、検討の中で整理していきたい。

◆議事(3) 第1編 誰もが健康で共に支えあうまちづくり【健康・福祉・子育て】

・事務局から議事(3)に係る説明(資料1・資料2)

(主な質疑)

小林会長

秦野市の総合計画の作りとして、基本目標、基本政策、基本施策があり、基本施策の目指すまちの姿に対して、1番目に現状やこれまでの取組み、2番目に今後の課題等を踏まえた取組みの方向、3番目に主な取組みの内容が記載されるという構成。こうした箇条書きのきちんとした構成というのは、はっきりと何をするのかかわかるので、多くの自治体では採用されないケースも多いが、秦野市は極めてはっきりと箇条書きで示すという姿勢であり、我々総合計画の専門家からすると、とても好ましい表現の仕方だと感じている。

資料2の前期基本計画の基本施策114の「医療・年金の健全運営」ということで、変更の趣旨として法定受託事務という用語があるが、事務局から皆さんに説明してほしい。

総合政策課

法定受託事務は、国が本来やるべき事務を、国に代わって一律に市町村等が行う事務であり、市町村の政策的な事務ではないもの。

小林会長

国の事務をそのまま市町村が引き受けているものであり、市町村の政策的な事務ではなく、市でコントロールできるものではないので、項目自体を削除して、他の項目で対応しようということだと思う。

斎藤(初)委員

問:資料2の第1編の基本政策3で、政策名の中で、「若い世代が夢や希望を持てる社会環境づくりの推進」と変更されており、とても素敵な言葉だと思うが、これを次の第2編の教育や生涯学習のところではなく、あえて子育てのところに加えたのは、何か意味があるのか。

総合政策課

答:資料2に変更の趣旨を記載しているとおり、秦野市は女性と子どもが住みやすいまちづくりを進めていて、保護者目線だけでなく、子どもを中心とした育ちの支援が重要ということで、その趣旨を加えた政策名にしている。

- 小林 会長 | こどもの視点は大事だと思う。つい大人の視点で子育てをしてしまうが、こどもを中心に考えていかないと子育ては難しいと実感している。
- 小泉 委員 | 問：19ページの基本施策111「健康寿命の延伸に向けた健康づくりの推進」で、はだのさわやか体操という言葉が出てくる。私自身、この言葉も知っているし、体操が掲載されたチラシは見たことがあるが、体操をしたことも、体操をしているのを見たこともないが、どの程度普及されているのか、また、秦野市としてどのような位置付けにしたいのか。
- こども健康部長 | 答：はだのさわやか体操については、誰もがができる健康づくりの基本として普及をしていきたいと考えている。普及に当たり、さわやかマスターという体操普及ボランティアを養成しており、今53人の方に登録いただいている。市のイベントや各課の事業の中で、さわやかマスターが主体となって、体操を教えて普及を進めている状況。
- 宮川 委員 | 意見：鶴巻地区は拠点があつて、そこで毎月の金曜日に2回、それと、「つどいの場きらく」でもさわやか体操をやっている。市民体育祭の時に取り入れると、もっと広がるのではないかと思う。
- 松崎 委員 | 問：健康という項目の中で出てこないのは仕方がないのかと思うが、セグメンテーションとして、まず20代、50代の話が出てこないと客観的に思っていて、その中で属性されない方、障害を持っていない方、普通に働いている方、フィジカル面もそうだが、精神的な面ということに対して何かしていくということが具体的に書かれていない。もう一点は、課題を持っている方を改革するというのは難しいと思うが、20代から50代くらいの通常健康に働いている方の今に対する施策を考えていないのか。
- こども健康部長 | 答：19ページの基本施策111「健康寿命の延伸に向けた健康づくりの推進」の今後の課題等を踏まえた取組みの方向（2）で、健康寿命の延伸に向けて、主に、青年期・壮年期の働く世代に対する健康管理支援を行うというところで、企業を通じて現役世代の方々に健康に対する意識を啓発していく活動を今年度から少しやっていきたいと思っている。
- 松崎 委員 | 対応されているのはわかるが、課題がある方に対応するというのは間違いないと思っていて、書いてあることも間違いないと思うが、今まちを作っている主軸であつて、今動かしている人、そこに対してもう少しフォーカスしても良いのではないかという意見。

宮川委員	問：31ページの現状やこれまでの取組み(7)について、「ちっちゃなて」とあるが、これは鶴巻のものを指しているのか。
こども健康部長	答：鶴巻の「ちっちゃなて」のこと。
宮川委員	支援をいただきありがたい。今後もよろしくお願ひしたい。
	<p>◆議事(4) 第2編 生涯にわたり豊かな心と健やかな体を育むまちづくり【教育文化・スポーツ】</p> <p>・事務局から議事(4)に係る説明(資料1・資料2)</p> <p>(主な質疑)</p>
薄井委員	問：第2編の基本政策2、生涯学習のところは、図書館について主に記載されているが、生涯学習施設は図書館だけではない。博物館、美術館含めて、広範にわたって位置付けられているはず。図書館に重点を置いているのは良いが、図書館だけという受け取られ方もある。図書館が生涯学習の全てではないので、もうちょっと広く書く必要があるのではないかと思う。私は博物館の館長をやっていたが、生涯学習の施設として、博物館、美術館は位置付けされていることは当たり前のことなので、秦野市としても、もう少しその辺のことを入れた方が良いのではないかと思う。
文化スポーツ部長	答：基本施策222「生涯学習環境の充実」としては、公民館と図書館を位置付けており、博物館関係については、基本施策232「郷土の伝統文化の伝承と文化財の保存・活用」の項目で、美術館については、基本施策231「市民の文化芸術活動の振興」に分けているが、生涯学習の施設とすれば、今申し上げたところが全て入ってくるので、もう少し工夫ができないか検討したい。
薄井委員	趣旨は良くわかったが、その辺のことが理解できるような説明を付けておく必要があるのではないかと思う。
海平委員	問：現在の図書館の利用人数と2030年の利用人数の見込み、それと桜土手の歴史博物館の現在の利用者数と、2030年時点の目標値をそれぞれ教えてほしい。
文化スポーツ部長	答：図書館の実績から申し上げますと、令和6年度は20万1,446人に来館いただいている。目標としては、今数字を精査しているところだが、22万人程度の来館があればというところ。博物館については、令和6

	年度で4万6,217人ということで、過去最高に近いのみに来館いただいている。今後、約5万人程度の方に来ていただければと思っている。
齋藤(初)委員	問：39ページの基本施策212「家庭・地域との協働による学校づくりの推進」について、今後の課題等を踏まえた取組みの方向(3)で、義務教育学校の教育課程として、「秦野ふるさと科」を位置付けるとあるが、これを新たに秦野市の取組みとして、科目をひとつ新たに設置するという方向性か。
教育部長	答：質問された趣旨のとおり。
齋藤(初)委員	問：学習指導要領の方向性として、地域について学ぶということも含まれるようになっているが、「秦野ふるさと科」は、社会科の一環としてなのか、総合科目に入るのか、検討はされているか。
教育部長	答：現在の教育課程の編成で、義務教育学校を設立した場合に、各教科の実数を総合して、新たな教科を設置することができるので、それぞれの良さをまとめた教科横断的な学習のひとつということになる。
齋藤(初)委員	問：41ページと43ページのところで、電子書籍の導入や、小中学校と図書館の連携などの記載があるが、これは、具体的にデジタルライブラリーなどを考えているのかというのが1点と、その後の47ページのところの、はだの歴史博物館だが、古墳公園というイメージが強い中で、それを覆して、歴史博物館というところを発信していく点に関して、ウェブサイトの強化、変更が求められていくと感じたが、それをどうしていくのか、展望があれば聞きたい。
文化スポーツ部長	答：電子書籍については、令和4年10月から、図書館で導入している。学校との連携については、教育委員会の方で、幼稚園、小中学校は朝の読書の時間があり、タブレットを持っているので、図書館からパスワードを伝えて、本を読めるように協力している。古墳公園と博物館の関係だが、当初、博物館は考古が中心であったが、秦野市全体の通史を博物館の中で展示し、発表していこうという形の中で、はだの歴史博物館と名称も変え、展示の中身も通史的なものに変えている。そういう中で、ホームページは、今年度デジタル化の作業を進めており、市のホームページとは別の形で、歴史と博物館というか、文化財のホームページを別に作って、そこから興味をもっていただくことを考えている。

◆議事(5) 第3編 名水の里の豊かな自然と共生し安全・安心に暮らせるまちづくり【環境・農林業・安全・安心・上下水道】
・事務局から議事(5)に係る説明(資料1・資料2)

(主な質疑)

田村委員 問：68ページの基本施策342「消防・救急体制の充実」について、消防団員の数が減っているという現実を踏まえて、それに対する取組みは入っているか。

消防長 答：消防団員の減少は全国的に起こっている現象であり、秦野市も消防団員を充足させるため、近隣の大学等に出向いて、学生消防団員の普及・啓発を行っている。それ以外にも、市民向けには、市民の日に消防団フェスティバルを開催し、消防団の良さを知っていただく取組みを行っている。

田村委員 問：具体策は難しいのだと思うが、人数が減っている中で、IT化とか仕組みでカバーするという工夫はあるのか。

消防長 答：昔の消防団については、農業や自営業などの生業をされている方が多くいたが、現在は仕事を持たれている方に団員の仕事もやっていたというところもある。難しいところはあるが、そういった中でも市の広報、ホームページ、SNS等で、市民向けにいろいろな周知をして募集をかけているというのが現状。

小林会長 なかなか難しい問題で、地域社会の人手不足というのは、消防団に限らず、たくさんの分野で起こっている問題。

田村委員 消防団と自治会と民生委員など。

小林会長 全ての分野でそういうことが起こっているということだと思う。人手不足についてどう乗り切っていくのか、考えていかなければいけない問題。消防団の研究をする学生がいるが、秦野市に限らず、非常に厳しい状況が続いていると思う。

小林会長 ここで、本日欠席の竹内委員から意見をいただいているので、紹介してほしい。

環境産業部長 53ページの、基本施策311「多様な生物を育む自然環境の保全と再生」について、生物調査に関する評価項目を追加できればというご意

見で、自然保護協会では、自然の状態を、指標種を用いて簡便に定量評価できる新たな手法を開発したということで、これを参考にしたらどうかということ。私どもとしては、新たな評価手法については詳細を知らなかったなので、調べてみたら、昨年、群馬県のみなかみ町、自然保護協会、三菱地所の三者が協働して、生物多様性に係る6項目を評価したことを受けてのご意見だと想定した。その中で、重要地域の評価であるとか、生物の分布予測というのは、本市はここ5年ほどで現状を把握している状況なので、今回の計画に、ご意見の評価指標を反映するのは難しいかと思うが、将来的にはしっかりとこの辺は入ってくるような形で、データを蓄積していきたいと考えている。

小林会長 是非、将来に向けて取り組んでいただけたらと思う。

斎藤(初)委員 問：64ページの基本施策331「持続可能な森林づくりの推進と林業の育成」について、今後の課題等を踏まえた取組みの方向で、建物の老朽化が進んでいって、どんどん見直しをしていくという方向を全体の計画で捉えていると思うが、そこに、この木材の利用をしていくという方向性を足すということは、理想的すぎるか。

環境産業部長 答：今、ご指摘いただいたのは、国においても進めている中で、神奈川県、また、本市においては、建築物の木材利用という方針を本年策定したところ。そういう意味では、これまで公共施設だけだったが、民間の建築物についても、できるだけ木材の活用を推進するという方針を、国、県、市でも出している。まだ、いろいろな使用量などが確認できていないので、計画にはっきり書き込んで目標に入れることは難しいが、方向性として、建替えに当たっては、森林をしっかり循環させていく中で活用していくという考えを示していきたいと思う。

斎藤(初)委員 その方が、市民が森林の恩恵を受けていることを感じられるかなと思ったので、是非お願いしたい。

◆議事(6) 第4編 住みたくなる訪れたくなるにぎわい・活力あるまちづくり【にぎわい・活力】

・事務局から議事(6)に係る説明(資料1・資料2)

(主な質疑)

宮川委員 問：78ページの基本施策411「都市形成と基盤整備の推進」について、目指すまちの姿(2)に、秦野駅北口のことを書いてあるが、渋沢駅と東海大学前駅と鶴巻温泉駅はもう全てやったから、秦野駅北口をや

	<p>るといことなのか。</p>
はだの魅力づくり担当部長	<p>答：ご指摘いただいた78ページは、基本施策411の中に入っている、ハードに寄った事業が書いてある。実際に、他の3駅については、4駅のにぎわい創造ということで、別の項目で取り上げていて、必ずしもハードの取組みではなく、ソフト事業を含めて、にぎわい創造を進めていくというような意味で、別の項目に記載をしている。</p>
石井委員	<p>問：88ページの基本施策「意欲もてる商業経営への支援の充実」について、私どもは商工会議所なので、行政と一緒に商業振興をしなければいけないと思うが、まちづくりを含めて特効薬になるものはない。OMOTANコイン含めて、「丹沢の杜、名水のまち」というコンセプトで、是非、全市挙げて、活性化ができるように指導をいただければありがたい。もうひとつは、名水のまちということなので、実現可能かどうかわからないが、水無川は水がないのが当たり前だが、地下にはかなりの水が眠っていると聞いているので、何とかきれいな水が常時流れるようにしてほしいと思っている。そこに鯉ではなくて、鮎だとか食べられる魚がたくさんいたらいいなど。秦野に来れば、どこにいても水が湧いていて飲めるというまちづくりも含めて、あったら良いなと思っている。</p>
環境産業部長	<p>答：ちょうど先週締め切ったが、秦野名水選抜総選挙をやっていて、名水については、あちこちにある湧水地をしっかりとPRしていきたいと考えている。</p>
薄井委員	<p>意見：83ページの基本施策421「地域資源を生かした観光振興の充実」について、この部分で文化財の活用が落ちていると思う。今、国も積極的に文化財については、保存と活用に重きを置いて推進しているはず。それに答えるだけのものが秦野市にはある。観光との連携ということで、文化財の活用というのを入れ込むことがよろしいかと思う。具体的には、蓑毛の大日堂の像だとか、秦野の場合にはいくらかもある。</p>
斎藤(政)委員	<p>意見：86ページの基本施策431「企業誘致と創造的な企業活動への支援の充実」について、名水を使えるような企業誘致を検討いただければと思う。</p>
	<p>◆議事(7) 第5編 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくり【市民と行政のパートナーシップ】</p> <p>・事務局から議事(7)に係る説明(資料1・資料2)</p>

(主な質疑)

石井委員 問：93ページの基本施策511「多様な担い手による協働の推進」について、ふるさと寄附金のプラスとマイナスはどれくらいになるのか。

総務部長 答：令和4年度が4億円近くまでいき、これが実績としては一番高い数値になる。昨年度は2億5千万円強というところで、令和4年度と比較すると減ってきている状況だが、今年度は現時点で、対前年度期比では約1.2倍という形で推移している。

石井委員 問：逆に、秦野市から他団体へ流れている額はどのようか。

総務部長 問：最終的に、市の方に入ってくる税金の部分については、交付税の調整が入る。その比較の中だと、昨年度の数字はまだ出ていないが、都市部の横浜市とか川崎市はマイナスだが、秦野市はプラスになっているという理解で良いかと思う。

石井委員 問：この資料を含めて、職員の方には負担がかかっていると思うが、今、我々の価値観では計れないような市民の方や消費者の方がいて、カスハラとかパワハラとかの問題で、市民の方に市役所の職員がやられてしまっているということがあるのか。

総務部長 答：特に、カスタマーハラスメントについては、先月の定例会議の中でも一般質問でご質問をいただいたところだが、具体的な数値として統計的に取っているものではないが、相談等が寄せられる中だと、やはり月に数件程度、そういった事例があると認識している。市役所の中でも、カスハラ対策を進めていこうということで、職員が付けているネームプレートが、今年の2月まではフルネームで、顔写真も職名も入っている丁寧なものだったが、3月以降に付けているものは、名字のみに切り替えをさせていただいた。窓口の職員の中から、特に女性職員を中心に、変えてほしいという声も多く届いていた。後は、座席表も従前は各課で掲示をしていたが、それも取り止めている。今年度は、民間企業等でもよく用意されているが、カスハラのポスターを窓口ごとに設置させていただこうと考えている。

◆議事(8) 地域まちづくり計画

- ・事務局から議事(8)に係る説明(資料1)

(主な質疑)

なし

- 小林会長 全体を通して、他に感想、意見等があればいただきたい。
- 池田委員 問：80ページの基本施策412「快適な道路・駅前広場づくりと地域に愛される公園や緑地の創造」について、橋りょうの耐震化と記載があり、耐震化は前からやられている認識だが、耐震化の実施状況はどのようか。
- 建設部長 答：市内に大体170橋ほど、大小様々な橋があり、その中から耐震化をしないと、大規模な地震が起きた後に復旧活動に支障が出るような重要な橋をピックアップしている。それを順次やっていくというところで、その3分の2程度は耐震化が終わっている。今残っているのは、大まかに言うと、東名高速道路の上に架かっている橋であり、耐震化を進めていかないと、通れなくなってしまう橋があるので、そういうところの耐震化を進めている。
- 小林会長 橋も、高度経済成長期に建設を進めたものが大きな負担になっているのだと思う。
- 小野委員 問：評価指標の設定が難しいという話があった。今は成果・活動量のところは検討中となっているが、その縦分野のところだけで評価基準を考えるとなかなか難しいと感じた。また、今日の話の中でも、この分野はどこにあるのかとなると、他の項目に記載されているということがあった。第一印象としては、社会課題というものが、分野をまたいで起きていると思っている。例えば、防災では、避難所の課題というと、女性の視点が足りていないという話や、性暴力の話が社会課題として出ているので、これらを掛け合わせた指標を考えていくことが必要だと思う。他には、高齢者の運転免許返納後の地域の足についても、安全運転と公共交通の分野にまたがると思うので、掛け合わせの指標を考えていくという視点が必要だと思う。また、関係する施策を、他の関連項目にも入れていった方が、一般市民が見た時に、より多くの方が理解できると思った。また、冒頭で関係人口の話があったが、いろいろなところに散らばっている指標があると思うので、秦野市ならではの指標があると、活性化に結び付くと思う。是非、検討いただきたい。
- 小林会長 大変重要な指摘だと思う。秦野市は行政評価に一生懸命取り組まれていて、なかなか一般の方には伝わらないが、EBPMとかロジックモデルとか、因果関係でツリー状の構造を作りながら政策を評価していくという取り組みも行っているが、事務局から何か意見あるか。

総合政策課	<p>指標の設定の仕方は、我々も非常に重要だと考えていて、基本施策ごとに成果指標を上げているが、設定の仕方についても、結局活動したことで達成できるようなものではなくて、活動した成果として得られる指標の設定が必要だと考えている。その上で、基本政策の枠組みの中で設定すべき必要もあるのかなとか。また、今、幸福度ということで、ウェルビーイングといった言葉もあるが、そういった主観指標、また、統計的な数字で拾える客観指標を組み合わせながら、施策がどう進んでいるかを図れる指標を考えていきたい。</p>
柴田委員	<p>秦野市と深い自然、水、農業といった資源と、東名高速道路、国道246号、小田急線とか相鉄線、そういったものを利用したアクセス性の良さというのは、非常に資源なのではないかと認識している。関係人口とか交流人口を拡大するときに、ターゲットをどこにもっていくかということが大事だと思う。アクセス性の良いところ、具体的には東京都西南部とか、川崎市、横浜市にお住まいの都市生活者の方々、トレイルランニングとか、山を使ったアクティビティの愛好者をターゲットに向けた施策を具体的に展開されることが、関係人口、交流人口の拡大には大事だと感じている。</p>
小林会長	<p>貴重なご意見だと思う。是非とも、小田急さんも含めてアクセス性と施策の連携を踏まえてご協力いただければと思う。</p>
高橋委員	<p>社会福祉という観点からすると、第1編、第2編あたりがカバーされる部分だと思うが、社会課題となると、政策として重なる部分が多いと思う。福祉と子育てと教育は不可分なライフステージの社会課題となっていると思う。社会課題に対してプロジェクト的なアプローチが、異なる政策の柱をつなげていく視点になっていくと思う。</p>
中谷委員	<p>問：どうして少子化になっているか、一貫教育の先に本当に幸せがあるのかなと。知識だけではなく、情緒教育が教育現場にもっと深く取り込んでいく必要があるのでは。お母さんの心理状況が、こどもたちの将来を決めるのかなと。情緒教育の充実をもう少しどこかで盛り込んでもらえればと感じた。もう一つは、小田急沿線の中で、看板とかPRに積極的に取り組んでいるのか伺いたい。</p>
はだの魅力づくり担当部長	<p>答：小田急沿線での特別なPRという意味だと、ポスターを駅に配架して乗客の方々にお見せしている。また、特に表丹沢エリアのPRについては、インスタグラムであるとか、市ホームページを通じて、ご覧いただいている方も増えている。対象年齢を絞ってPRできていると感じて</p>

いる。

山崎委員 問：成果・活動量については検討中ということだが、まだまだアウトプットの多いものがある。また、主観的な指標について、県でも県民の満足度というものを結構盛り込んでいる。図書館の入場者数という指標を設定するのは良いが、来た人の満足度とか、そういうものを入れ込むと総合評価しやすいかなど。私も長いことやっているが、質の評価に変えていく必要があると思うので、満足度とかそういう視点も入れて仕上げていただければと思う。

小林会長 最近デジタル庁が、ウェルビーイング指標として、客観指標と主観指標をバランス良く表現したり、それから、オープンデータ化が進んできて、行政のデータがいろいろ使えるようになってきているので、そういった統計データを使いながら。客観指標だけだと評価できないことがたくさんあって、住民の方がどう感じているかというところを大切に始めて、特にアウトカムは大切な指標かと思うので、検討していただき、内容の修正を図っていただきたい。

◆議事2 その他

・事務局から、計画素案に関する今後のスケジュール及び次回の審議会日程予定を説明。

小林会長 委員の皆様には、本日も積極的なご意見をいただきありがとうございます。これから11月までに計画案を作るということなので、ご意見等あれば、事務局へお願いしたい。

12:00

◆閉会